



## 11/25 イルミネーション点灯式



10月1日から約2か月間の準備を経て今年も見事なイルミネーションになりました。今年は特別な年。「江留上誕生1200年」そして「新幹線開通」この2つをモチーフにした新たな電飾が加わり、江留上コミセンを美しく照らしてくれています。

毎年イルミネーションの制作担当にあたっておられる壮年会の皆様、今年も、ステキな夜の光をありがとうございました。そして、お疲れ様でした。



# 江留上の歴史を知ろう！

10月22日 開催

江留上の歴史等について、まちづくり協議会の渡邊眞吾委員と鈴木英雄委員による学習会を行いました。その後、旧島崎家離れを見学しました。子どもの頃よく近くで遊んだが、離れの中に入ったのは初めてですという参加者もいました。



## 防災研修

9月3日（日）に防災研修として富山県広域消防防災センター四季防災館に行きました。流水の中を歩く流水体験と風速30mを実感する風災害体験を行いました。本当に大丈夫なのかとドキドキした体験になりました。



## 親子ふれあい、まち歩き

今年度初の事業でした。かなり長い道のりでしたがみなさん完歩出来て良かったです。

9月23日 開催

## カンタケ栽培 11月10日 開催



参加は無料

コーヒー・おやつ付♡



中学生がボランティア活動にやってきました。この日は中学生の企画したゲームなどで楽しみました。

《かみむらカフェ》は江留上まちづくり協議会わくわくいきいき倶楽部高齢福祉活動のひとつです。毎週火曜日13:30から実施しています。



二胡の演奏会 10月17日

わくわくいきいき倶楽部 高齢福祉活動部



～江留上まちづくり協議会 今後の予定～

令和6年3月3日

ふれあい餅つき大会





## 『四季の彩り 季節の練り切り』

昨年度も開催した練り切り講座。パンと同じく毛利先生の指導のもと素晴らしい作品に仕上がりました。

「お店で買って来たみたい！」と自画自賛の方続出の楽しい講座でした。

10/21 開催



## アンコール企画 11/18 12/2 開催 『手ごねで作るハードパン』

前期講座で大好評を得、アンコール企画として開催しました。今回も直ぐに定員になり嬉しい限りです。講師の先生も楽しく和気あいあいと進めていました。毛利先生ありがとうございました。



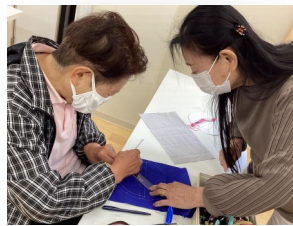
# コミセン講座

## 『刺し子で作る数珠入れ』 11/2 11/16 11/30 開催

少し複雑な模様にとまどいながらも、キッチリ3回で仕上がりました。刺し糸次第で見え方が違い“かわいい”“エレガント”“おしゃれ〜”と大変満足のいく作品になりました。



前期で開催した「手ごねで作るハードパン」・「歪みを整える体操」はとても好評で「とても楽しい」「まだまだ続けたい!」「もっと教えて欲しい!」という声があがり、自主講座を立ち上げることになりました。「歪みを整える体操」はサークルの名前を「ひまわり」として引き継ぎ前野先生より体操を教わります。若干名の会員募集をしますので、興味のある方は、お気軽にコミセンまでお声掛けください。



# 江留上子ども教室

## ハロウィンピザ作り 10/28 開催

## アドベントカレンダー作り 11/13 開催

初めて開催する教室「アドベントカレンダー作り」春江中コミセンと合同開催で行いました。細かい作業もありましたが、みんな楽しく作っていました。毎日ひとつずつ袋を開けて、どんなお菓子が入ってるか、どんなシールが入ってるかわくわくしたのではないのでしょうか？24日分のクッキーはサンタさんにあげてね。

サンタさん、来るといいね!



ピザ生地も手作りです。こねこね楽しく作れました。後日「とっても美味しかった〜♡パパも美味しい〜って言った(^^♪)」と報告してくれました。





# かみむら物語

## コラム2. 「江留上誕生1200年」

今年は、江留上にとって記念すべき年になりました。江留上に人が住み始めて1200年、春江小学校創立150周年、福井地震から75年の節目の年であり、江留上の産業であった絹織物の最後の工場が閉じられた年でもあります。また、来年には北陸新幹線が開業し、春江駅はハピライン春江駅に生まれ変わります。これらの出来事は密接に関係し、江留上の歴史を刻んできました。

前回のコラムで、福井平野は縄文時代の気候変動により、湖(潟)が湿地や沼の広がる平野に変わっていったことを説明しました。この地形の変化により、湖の周辺に住んでいた縄文人は、福井平野の中心に向かって生活の範囲を広げていきました。(後日のコラムで詳しく書きたいと思います。)

さて、江留上周辺で大きな河川というと、礪部川と九頭竜川が思い浮かびます。九頭竜川の源は、福井県と岐阜県の県境の油坂峠に発し、流路延長116km、流域面積2,930km<sup>2</sup>もの巨大な河川で、かつて『崩れ川』とも呼ばれた暴れ川です。一方、礪部川の源流は、丸岡町礪部新保あたりの農業排水路で、流れは緩やかです。礪部川の源流は意外と近しいと思われただけではないでしょうか。

礪部川は現在より、さらに東側に源流があったと考えられますが、九頭竜川の洪水による土砂流入により、丸岡町南部から春江町南部を池沼に変え、その池沼を源流する河川になりました。

その痕跡を、ハザードマップにより見てみましょう。黄色→薄桃色→ピンクになるほど洪水時の浸水深が大きくなります。

造成工事による盛土や、昭和40～50年代に行った農地改良による水田の大規模化・盛土により、もともとの地形の高低差がわかりにくくなりましたが、現代でも池沼の跡が周囲より低くなっています。

洪水時に運ばれた土砂の堆積により、河川の両端には、砂礫で出来た微高地ができます。これを自然堤防と言います。縄文時代後期～晩期、地盤の安定した自然堤防に人が定住を始めました。狩猟採取中心の生活でしたが、弥生時代になり稲作が伝来すると、湿地は稲作には好条件であることから、自然堤防の周囲から稲作をはじめ居住範囲を広げていきました。

時代はとび、寿永3年(1187年)越前国榎富庄(えとみのしょう)は、皇室領系の荘園として文書に出てきます。榎富庄は現在の江留上・江留中・江留下あたりと考えられ、十分な米の収穫量があった証拠と言えるでしょう。

☆お礼 中央区 島崎正昭様、緑区 西畑光広様、資料のご提供ありがとうございました。

江留上や繊維産業の資料、昔の写真のご提供を引き続き募集しています。また、昔の江留上の思い出など、文章も募集しています。江留上コミセンまで、ご一報ください。



図2-1 沼池と自然堤防の痕跡